



『沖繩の業界地図』を発行した大城・豊川合同ゼミ(9頁参照)

## Contents

- 02 沖大硬式野球部準優勝！
- 04 男子バレー部の勢いが止まらない
- 04 杉本、ツール・ド・宮古ロードレース2冠
- 04 冠奨学金授与式
- 05 特集 海外留学・スタディツアーのススム
- 08 リレーエッセイ第4回(就職支援課・島仲小百合)
- 09 研究のひろば(松尾理沙)／わがゼミナール(大城淳)
- 10 聴講生インタビュー(伊藤わらび)
- 12 2015年度入学式
- 14 2014年度決算／2015年度予算
- 15 沖繩大学後援会・同窓会総会報告
- 16 2016年度学生募集／父母懇談会お知らせ

### 学長コラム③

#### 忘れる自信

仲地 博

先日、銀行に定期預金の継続の手続きに行った。昨年は身分証明書を忘れて二度手間になったので、賢い人は同じ過ちは繰り返さない、前の晩から運転免許証を確認した。カウンターで預金証書と免許証を出した気分は「これでどうだ、文句あるか」というところである。ところが、「印鑑を」と言う行員の一言に我に返った。そうか、印鑑も必要なのか、気分は「とほとほ」と印鑑を取りに帰った。家に帰りついてから、はっと気がついた。印鑑も昨晩から準備して鞆の中に入れてではないか。わざわざ準備をしたことを忘れるとはなんと賢くないのであろう。気分は「ウツチンター」(俯いて)して銀行に戻った。

近年忘却力の成長著しい。『忘却力』で新書一冊書けそう。なにもかも、そしてすぐ忘れてしまうので、秘書室には「学長は忘れてはならず」ということを念頭に対処してくれ、とお願している。

それにしても、「印鑑を」と言われ、持っているか確認することをせず、すぐに「あつ！ 忘れた」と思ってしまったのはなぜか。賢い人は考えた。自分はいつも忘れる、だから印鑑も忘れてはいるに決まっている、という思い込みからではないか。もはや自信とすらいえる。そう、「忘れる自信」だ。

人間自信を持つと、持てる能力を発揮し、それがまた自信になる。逆に「できない」と思うと、できるはずのこともできなくなる。どうも忘れる力に自信を持ち、忘れる能力を十分発揮しすぎているのが昨今の私ではないか。

#### 【教訓】

自信はプラスの面で持とう。  
自信を培う教育をしよう。



## 第93回九州地区大学野球選手権大会 沖大硬式野球部準優勝！

第93回九州地区大学野球選手権大会が5月20日(水)から沖縄セルラースタジアム那覇をメイン会場に開催された。本学硬式野球部は沖縄県予選を勝ち抜き、沖縄県代表として全日本大学野球選手権大会(神宮大会)への出場をかけて九州各地区の予選を勝

ち抜いた代表校13大学と熱戦を繰り広げた。結果は、1984年以来、31年ぶりの決勝進出を果たしたが、西日本工業大学(前回大会優勝大学)に2対0とリードしながらも8回に逆転を許し、2対5で惜しくも準優勝と神宮大会へあと一步届かなかった。



第93回九州地区大学野球選手権大会が沖縄県で開催されました。この九州大会で優勝することを目標に年間厳しい練習を行ってきました。

初戦は緊張もあり、なかなか思うような試合展開ができず苦しみましたが、なんとか勝利することが出来ました。二回戦では、最終回までリードされながらも9回に逆転勝利しました。今振り返ると、二回戦の逆転劇が、チームに大きな自信をもたらせたと思います。チームが一つになり、誰一人として諦めている選手はおらず、絶対に勝つという気持ちで居続けられたことが大きかったと思います。私自身一度たりとも負けることが頭をよぎることはありませんでした。準決勝も順調に勝利し、決勝戦へ進出しました。

決勝戦、前日のミーティングでは、全員の気持ちを一つにすることを十分に確認して臨みました。さすがに全国大会出場のかかった試合となるので意識し



九州大会を終えて

国際コミュニケーション学科4年

松元 勇樹

すぎることを少し心配していました。しかし、ウォーミングアップの時からいつもの様子だったので、チームがこれまでと同じ良い状態であることを実感しました。試合が始まり、前半はチャンスをおかすことが出来ず苦しみましたが、6回に先取点を奪い、8回にはスクイズで1点を追加し2対0とリード。勝利まであと5人抑えれば勝ちという状況でしたが、そこから相手の猛攻にあい、流れを一気にもって行かれ、逆転負けを喫してしまいました。あつという間の出来事でした。

結果は準優勝に終わり、目標の全国大会出場は果たすことができませんでした。この九州大会は、私の野球人生において、とても濃い時間でした。チームが試合を重ねるたびに強くなっていくことが実感でき、振り返れば振り返るほど、このチームの主将としてやれたことを誇りに思います。この負けを、沖縄大学野球部の貴重な試合とし、後輩には是非、全国大会へ出場してもらいたいと思います。両親、首脳陣、周りで支えていただいた多くの方々に感謝しています。ありがとうございました。

決勝戦までの戦い

**1回戦 沖繩大学 1-0 崇城大学**  
熊本地区1位の崇城大学戦は、息詰まる投手戦となった。均衡を破ったのは、4番新垣太一（糸満卒・健スポ4年）の一振り。9回までヒット1本と押さえ込まれていたが、9回一死から2番内間安音（明德義塾卒・法経2年）が四球で出塁し、3番幸地勇太（知念卒・法経3年）が送りバントで二塁に進め、4番新垣太一が2ストライクと追い込まれながらも4球目をセンターオーバーのタイムリー2塁打を打ち1対0で勝利した。

**2回戦 沖繩大学 2-1 第一工業大学**

優勝候補に名前があがる鹿児島地区1位の第一工業大学との2回戦は、3回に1点を先制される苦しい展開となったが、またしても9回に驚異の粘りをみせた。先頭打者の5番美崎直聖（八重山卒・健スポ3年）がライト前ヒットで出塁すると一死後、7番山口栄太郎（浦添商卒・法経2年）がライト前ヒットでつなぎ一死1・3塁。8番に代打を送るも三振となり二死となるが、9番亀川良太（浦添卒・健スポ2年）が投手後方へタイムリー内野安打を打ち同点に追いつく。続く1番金城森也（嘉手納卒・健スポ3年）は四球を選び二死満塁とし、2番内間安音がレフト前に運び逆転に成功。投げてはエース山城翼（糸満卒・健スポ4年）が9回裏を3名で抑え、1失点完投とチームの勝利に大きく貢献した。

準決勝 沖繩大学 3-1 宮崎産業経営大学

宮崎地区1位の宮崎産業経営大学戦は、1回戦、2回戦とは違い、序盤にあげた3得点を守りきり勝利。3日連続でマウンドに上がった山城翼を援護したい打線は、初回に2番内間安音が右中間を破る、3塁打を打ちチャンスを作ると、3番幸地勇太がきっちり外野へ犠牲フライを打ち先取点をあげた。続く2回にも9番亀川良太のレフト頭上を越えるタイムリー2塁打で2点を追加。投げてはエース山城翼が5安打1失点と完璧な投球で31年ぶりの決勝進出を決めた。

**決勝 沖繩大学 2-1 西日本工業大学**

決勝は福岡・長崎地区3位の西日本工業大学との対戦となった。西日本工業大学は、昨年の大会で優勝し全日本大学野球選手権大会に出場している強豪チーム。序盤から両チームともチャンスを作ることが好守に阻まれ得点することが出来ずにいた。均衡を破ったのは、またしても新垣太一。6回2死3塁で打席が回ってくるとしぶとくレフト前にタイムリーヒットを放ち待望の先取点をあげた。8回には7番亀川良太がスクイズを決め2対0と突き放す。しかしその裏エース山城翼が4連投の疲れからか西日本工業大学の打線につかまり、長短打を含む5安打を打たれ5失点と悪夢の8回となった。結果2対5で逆転負けを喫し、神宮大会へあと一步届かなかった。

監督コメント

監督 大城 貴之

昨年の5月、このチームのスタートは、前チームでの多くの努力が結果に結びつかず、選手達は自信を失いかけていました。監督としては、次への挑戦のために、選手たちの切り替えと、もう一度挑戦しようという新たな気持ちをつくりだす必要がありました。何度かミーティングを重ねました。そして、主将の松元勇樹（国際コミュニケーション学科4年・与勝高校出身）を筆頭に、チーム目標を2015年5月の沖繩大会で「優勝」全国大会出場」と設定し、目標に向かってチーム一丸となって挑戦していく決意をチームで確認しました。



準優勝を報告する部員（松元勇樹主将：中央）

選手達は、この1年を通して、強化に必要なことを自発的に取り組んで来ました。この自発的行動には、キャプテン松元勇樹の素晴らし

しいリーダーシップがありました。このチームは当初、彼の打撃力を活かそうと投手から一塁へコンバートしましたが、試合機会を得るにはかなりの結果が求められる立場にいました。彼がキャプテンに選出された時、「己のことよりチームのことを優先にキャプテンとして自己犠牲を求めると私は彼に宣告しました。彼にとつては酷な宣告だったと思います。しかし、彼は、スタッフや選手と綿密に話し合い、誰よりも練習し、誰よりもチームのことを優先に行動しながらチームを牽引しました。キャプテンが松元でなければチーム強化はここまで図れませんでしたが、とても素晴らしいキャプテンでした。

2015年5月の決勝トーナメントでは、優勝までの4試合をどう戦うか選手とともに考えました。エース山城翼（健康スポーツ福祉専攻4年・糸満高校出身）の4連投は、その話し合いによる私の決断でもあり、山城の覚悟でもありました。大会における試合では、対戦相手エースの投球に苦しみ、得点力に課題は残りましたが、重要な接戦を勝利し、1984年以来31年ぶりの決勝進出を果たしました。しかし、2対0とリードしながら、8回裏に5点を奪われ逆転負けを喫し、目標実現あと一步のところ悔しい負けを経験しました。チームで共にした勝ち負けや喜怒哀楽を通して、目標は非現実的なではなく現実的なのだということ、そして目標を持つことの強さ、大切さを選手やスタッフ皆で体感す

るといふ、貴重な経験をさせて頂きました。ぜひとも今後に繋げていきたいと思えます。ただ、今となっては今回の準優勝は、すでに過去です。我が硬式野球部は、創部57年まだ全国大会出場の実績がありません。スタッフ、選手とともに今後も挑戦し続ける野球部運営を目指していきます。今後とも変わらぬご支援の程よろしくお願い申し上げます。

そして、最後になりますが、大会期間中に限らず、日頃より大学教職員、同窓会、後援会の皆様には多くのご理解とご支援を頂きました。また、野球部OBの皆様には、絶えず忌憚のないご意見を頂戴しながらチームを側面から支えて頂きました。そして、何よりも、選手の保護者及び関係者の皆様には、多岐にわたる、全ての面においてご理解とご協力を頂きました。関わらせて頂いた全てのことが結果へと繋がっております。誠に感謝に堪えません。ありがとうございました。



長濱正弘理事長、仲地博学長表敬訪問（筆者右端）

# 男子バレーボール部の 勢いが止まらない

# 九州2部リーグ昇格!!



5月中旬、鹿児島県鹿屋市串良平  
和アリーナで、平成27年度九州大学  
春季バレーボール男子リーグ（鹿児  
島大会）が開催されました。  
現男子バレーボール部は、2年前  
に本学を卒業した大城孝也コーチ  
が在学中に再結成。以後、着実に昇  
格を重ね、高校時代に活躍したメン  
バーが集まる勢いのあるチームに  
育ってきました。  
今回、3部リーグ5戦を全勝し、  
優勝。2部リーグとの入れ替え戦も  
勝利し、見事2部リーグ昇格を果た  
しました。10月秋季リーグ戦（熊本  
大会）での1部入りを目指して、仲  
宗根純一監督の指導の下、日々、体  
育館で練習に励んでいます。



仲宗根純一監督らと2部リーグ昇格を仲地博学長、山代寛学生部長へ報告

### 3部リーグ優勝

- 沖繩大学 2-0 県立長崎大学
- 沖繩大学 2-0 長崎ウエスレヤン大学
- 沖繩大学 2-0 沖繩国際大学
- 沖繩大学 2-0 崇城大学
- 沖繩大学 2-0 宮崎大学

### 2部入れ替え戦

- 沖繩大学 2-0 日本経済大学

6月中旬に開催された第8回ツ  
ール・ド・宮古島2015の自転車ロ  
ードレースで、法経学科2年の杉本雄  
隆（国士館高校卒）がレース最長の  
184kmの部で優勝。  
強豪選手が競うこのレースで、杉本  
君は80km地点で勝負を仕掛け、残り  
100kmを独走。2位に2分の大差を  
つけ、5時間2分27秒のタイムでゴール。  
昨年が続ぎ、2冠を果たしました。  
普段は朝5時起きで100kmくらい  
走ってから登校し、まずは部室（ポラン  
ティアサークル）で英語を自習するの  
が日課。自転車を通じて多くの外国選  
手と友達づきあいをしているので、英  
語は欠かせないそうです。  
11月に本島北部で開かれる日本有数  
の大会「ツール・ド・おきなわ」ではチャ  
ンピオンレース（210km）に出場。「サ  
イクリストは、やんばるに結集を！」  
（稲嶺名護市長）を合言葉に、世界中か  
ら集まる選手たちと一緒に走れるのが  
楽しみですと話しています。

### ツール・ド・宮古島2015

## 杉本雄隆君、ロードレース 184kmの部を制覇!



県内の企業及び  
個人・団体からの  
寄附金で運営され  
ている冠奨学金の  
証書授与式が8月  
6日（木）に同窓会  
館にて開催されま  
した。  
式には、寄附企  
業の代表者及び関  
係者約25名、奨学  
生32名が参加し、  
企業の代表者から  
奨学生へ証書が手  
渡され、奨学生一  
人ひとりと硬い握  
手を交わしていた  
きました。

### 冠奨学金授与式



### 空手道部 新垣基君の横姿



10月18日に福岡で開催される全九州  
大学空手道選手権大会に向け、日々ト  
レーニング室で汗を流している新垣基  
君（那覇高校卒・こども文化学科2年）  
この夏、須藤ゼミで戦没者遺骨収集を  
体験し、「これ  
からは私たち  
が70年前に歩  
み寄り、耳を  
澄まし、戦争  
の真実を伝え  
ていく必要が  
あるのではな  
いだろうか」と、感慨深げ。

## 特集

海外留学・  
スタディツアー  
のススメ

突然ですが、…今の学生生活に満足していますか? 「部活やアルバイトで毎日充実はしているけれど、何か物足りない」 「在学中にもっと大きなことを成し遂げたい」 などなど、それぞれ自分の心に秘めた思いや葛藤があるかと思えます。その中で、「海外に行きたい」と思う人も少なくないでしょう。しかし、海外に行くといっても、個人旅行や留学、スタディツアーなど行き方はさまざま。そこで今回は「海外留学」に焦点を置き、とりわけ本学の留学制度を利用して留学した学生や、現在留学中の学生、沖縄大学に留学している交換留学生に留学体験記を書いてもらいました。みなさんの留学の後押しとなれば…と思います。(国際交流室)

海外留学・  
スタディツアー  
のススメ

## バスケットで充実、台湾留学一年半

法経学科4年生の大城郁佳琳さん(那覇高卒)は、中国語検定2級HSK5級に合格、法経学科初の中国語副専攻として今年9月に卒業予定です。  
(インタビュー・小野啓子)



中国語を勉強したのは大学生になってからです。積極的な学生ではなく、教室の一番後ろに座って単位が取れればいいと思っていました。例文をそのまま覚えて試験を受け、点数は良かったです。

2年生も引き続き、中国語会話を履修しました。ちょうど部活のバスケットの練習の繰り返しで、先生が授業でみんなに「留学したい人!」と声をかけてくれ、あまり考えずに手を挙げました。2年生の9月にHSK3級の試験を受けました。1/3くらいしかできなかったと思います。2人受けて2人合格したので、100%の合格率でした(笑)。

2年生後期の授業を終えて台湾に行き、3月から台中にある東海大学華語中心で中国語の授業を受けました。学生は約30人で1/3が日本人。最初に実力テストを受けましたが、入れられたのは一番下の初級クラス。1クラス6人でしたが日本人5人と韓国人1人で、授業以外はほとんど日本語で話していました。授業は毎朝8時から3時間。あとは週に2回、日本語学科の授業に参加していました。

5月になって少し慣れてきた頃、日本語学科のバスケット部の練習に参加させてもらうことになりました。台湾はバスケットが盛んで、各学科に一つずつバスケット部があります。さらに全学のトーナメント大会に出場した時に声をかけられ、大学代表チームに参加することになりました。ここでは中国語しか通じず、すごく鍛えられました。最初の年の中間テストではクラスの中で一人だけ聞き取りが抜群に伸びていて驚かれました。12月に中部リーグの大会があり、東海大学はなんと優勝! 貢献できたと思います。

留学した当初は寮生活でしたが、同室の台湾人の学生たちは夜が遅く、授業が朝早い私と生活時間が合いませんでした。さらに、バスケット部の練習が遅い

日には門限に間に合わない。結局3ヶ月余で寮を出ました。アパート探しや契約はバスケット部の友達の手伝いで済ませました。学生向きアパートは冷蔵庫、ベッド付き、シャワーとトイレはありますが、キッチンはない。夜市が近く、土日はバスケット部のみんなと少し遠くまでおいしいものを食べに行ったり、楽しかったです。

沖大は休学手続きをして、2年目は私費留学になりました。中国語は中級を飛ばして上級クラスに配置されました。同じクラスの6人は世代も国籍(ベトナム、タイ、スロバキアなども多様)中国語のレベルも高くて、本当に楽しかったです。ただ、残念なことにビザの延長手続きがうまく行かず、結局半年で帰国しました。卒業後は台湾で働きたいと考えています。

注1/中国語検定2級…実務能力の基礎ができています。やや高度の中国語を読み、基本的な文章を書き、日常的話題での会話が行えるレベル。

注2/HSK5級…中国語の新聞や雑誌が読め、映画やテレビも観賞でき、中国語でスピーチできるレベル。



(写真提供・大城郁佳琳さん)

海外留学・  
スタディツアー  
のススメ

特集

## 世界観が広がりました

国際コミュニケーション学科3年(浦添工業高卒) 新垣 夏美

海外留学・  
スタディツアー  
のススメ

特集

高校時代、県の交流事業で初めて台湾を訪れた時、私は全く中国語が話せなかった事ですごく悔しい思いをしました。交換留学制度が整っている沖大に進学してからは、一から中国語を学び、去年の2月から台湾台中にある東海大学で留学生生活を始めました。

本学で一年間中国語を学んではいたものの、台湾でしか使われない言葉が日常会話に出てきて、最初のうちは戸惑っていました。文字の問題もありました。沖大の授業では簡体字という簡略化された漢字で習って



彩虹眷村にて、大道芸人と留学生一行(新垣さんは左から2番目)

いたのですが、台湾では、日本の旧漢字のように画数の多い繁体字が使用されています。最初は全く読めませんでしたが、漢字なので2か月ほどで慣れました。

東海大学内の華語中心と呼ばれる語学学校で中国語の授業は行われます。午前・午後のクラスに分かれていて、私は午前のクラスに参加しました。午後は言語交換をしたり、大学の講義を受けました。

様々な国の人がクラスメイトで、クラス6、7名程度で構成されていました。授業は最初から中国語で、どんなにわからなくても中国語で説明されます。最初の頃は聴き取ることも、発言もできなかつたのですが、慣れていくと会話を楽しくなります。先生方も先生というより、お母さんやおばあさんのような感覚でとてもアットホームでした。寮での生活は、中国人2人、台湾人1人と私の4人一部屋で、仲良くなると4人でおしゃべりして翌朝寝坊しかけるということもありました。

台湾は慣れると居心地が良くて、帰りたくなるほどいい国です。留学のおかげで世界中から集まった人と出会い、様々なことに興味を抱くようになり、自分の世界観が広がりました。皆さんもそんな環境に飛び込んでみませんか？

## “I had great time in Australia”

国際コミュニケーション学科3年(糸満高卒) 深松 優海

I went to a town called Toowoomba in Australia for 10 months, beginning last May, to study English. It was the first time for me to go abroad and take a trip by myself. I felt excited as well as worried, but I could finish studying abroad because of everyone's support, including my homestay mother, my teachers and my friends. Australia has people from many nations. They come from around the world, like China, Thailand, Africa and so on. Everyone was very kind, and they listened to my problems and helped when I had trouble. Moreover, everyone encouraged me when I acted independently. Therefore, I learned that it is important to do something aggressively by myself. This helped me become more mature. I'm really thankful to everyone, especially my Thai friend. She is my first friend and my best friend. She and I both lived overseas and left our families for the first time. However, we could do our best for each other, and support each other. Also, we were able to empathize a lot with each other because our ages are very close and we shared a similar situation.



最後の授業！世界の料理でfarewell party(深松さんは右手前)

When we met for the first time, we could not speak or understand any English. However, I thought that even if we could not speak English well, we could know what we wanted to say, feel and think. I learned a lot of things not only English skills but also good points about Japan and overseas. Also, I learned many things that I did not know before I went to Australia. If you have any opportunities to go abroad, please try to go!! It will be a good experience for you.

海外留学・  
スタディツアー  
のススム

## アメリカでの生活

国際コミュニケーション学科4年(嘉手納高卒) 屋比久 孟史



シアトルのパブリックマーケットにて

今年の3月中旬から、シアトルの北にあるエベレットという町のエベレット・コミュニティ・カレッジに留学しています。留学生用の英語クラスは5つに分かれ、僕は下から2番目のクラスですが、授業にはほぼ問題なくついていけているので、次の学期からは1つ上のクラスに行く予定です。

私生活ではフィリピン人のホストファミリーと過ごしています。この夫婦は2人とも70代後半で、家には息子が1人、孫が2人、他の留学生が3人います。普段一緒に過ごしている家族はほんの一部で、実は子ども7人、孫20人の超大家族です。イースターの日に全員集まったときは驚きました。また彼らはカトリック教徒なので、毎週日

曜日に夫婦と一緒に教会へ行っています。僕がカトリック教徒でないにも関わらず、受け入れてくれるのでありがたいです。

僕はドラムができるので、時々地元のパブやフェスでセッションしています。割れんばかりの拍手をもらったり、小遣い程度のお金をもらったり、それなりに楽しんでます。また時々シアトルへ行き、世界的に有名なミュージシャンの演奏を聴きに行ったりしています。

他にもここで書ききれないほど素晴らしい経験を沢山していて、その度に留学してよかったと感じています。しかし実はここへ来る1年前までは留学のことも全く考えていませんでした。2年次のときに法経学科藤澤宜広先生のアメリカスタディツアーで初めて海外へ行き、まるで2、3ヶ月滞在していたように感じるぐらい濃密な体験をしました。帰国してから、もっとと長期間過ごしたいという思いが募り、留学を決意しました。

僕は本来なら今頃、就職活動を始める時期なので、正直なところこれが今の一番大きな不安です。しかし今の僕にとって留学という経験は大きな挑戦であり、将来何をするか分からなくても必ずこの留学が活きてくると信じています。そしてそれをより良く活かすためにも、今与えられた環境を大事に過ごしていこうと思っています。

海外留学・  
スタディツアー  
のススム

## 優しい風が吹いてくる、二二は

韓国・聖公会大学からの交換留学生 李 讚美 (イチャンミ)

韓国ではまだ冷たい風が懐にしみ込む3月末、那覇に降りて迎えた沖繩の風はすでに夏の気配を帯びていて「3月から夏なのか」と焦ったのが昨日のようです。

沖繩に興味があつて新聞記事やインターネット資料を集めてきたのですが、まるで砂漠で露をなめるような渴きを感じるくらいに少ない韓国の資料では、沖繩に対する知識欲を満たすにはあまりにも足りなかったのです。歴史の奥に消え去った悠遠な琉球のお話や、捨て石にされ多くの犠牲を払った沖繩の記録は断片的ながらも探せたのですが、それらの多くが韓国や日本の立場からの資料であつて、詳しい歴史の流れや事件の内幕、過去から現在にいたる沖繩住民の立場からの証言は見つけられませんでした。沖繩をもっと深く知るためには沖繩で勉強するしか



ないと思ひ、交換留学への思いに火がついたのです。

講義の大半は沖繩関連で構成されています。歴史をはじめ沖繩の様々な学問を自由に学べるのが嬉しい限りです。聞き取れない言葉や識別できない黒板の字に困る時もありますが、成績よりもここに来られなかったら一生聞くことができなかったはずの授業を受けられる嬉しさの方が勝っています！

ほかに沖繩でぜひとも習いたかったエイサーもエイサー部に入つて頑張っていますし、探検部の皆さんとキャンプに行ったり、アート部の皆さんと芸大のドローイング展にも参加するなど、充実した毎日を送っています。

沖繩の皆さんは優しさに溢れていて、寂しがる留学生の姿を見ていられないようです。会うたびに笑顔であいさつをしてくれ、小さいことでも一緒にしてくれようと心がかたく嬉しくて、勉強からも目標からも離れて、この人々とのつながりが物にも金にも変えられない思い出になるに違いないと心から思います。

あつという間に過ぎてしまった2か月半のように、残りの8か月もいざれ過ぎ去ってしまうでしょう。振り返る時に後悔のないように、やりたい勉強も力の及ぶ限り頑張つて、夏休みには沖繩自転車一周旅行にも挑戦して、2月には笑顔で「またね！」とあいさつし、そして私はまた沖繩へ帰ってきたいのです！

特集  
海外留学・  
スタディツアー  
のススメ

## カンボジアスタディツアー記

法経学科4年（豊見城高卒） 仲村 隼



アンコール・ワットを背景に記念撮影（仲村さんは一番右）

去年の夏休みの9月1日から7日にかけての1週間、吉本篤人先生企画のスタディツアーでカンボジアに行ってきました！異国の文化や状況の理解、異国の人々と触れ合いながら新睦を深めるのが目的です。

以前から私自身が海外を旅してみたかったこと、国際交流を通じて色々な国の方々と繋がる喜びを味わいながら、自身自身の世界観を広げてみようとの思いで参加しました。

初日から5日目まで滞在した

プノンペンでは司法センターを見学し、そこで日本人講師による法律の講義を傍聴しました。また、JICAカンボジア事務所を訪問し、日本人職員の方からカンボジアの事情を伺ったり、王立法律経済大学では、カンボジアの学生らと交流をしたりと、スタディツアーならではの体験ができました。

5、6日目はシエムリアップに滞在し、いよいよアンコール・ワットに足を運びました。遺跡の頂上から見る絶景は、今まで見たことがないものでした。

今回のツアーを通して、カンボジアの朝から夜までお祭りのようなにぎやかな雰囲気や、朗らかで親切な人柄、そして現地でしか食べられない食べ物に巡り合えて人生で貴重な経験を味わうことができました。また、日本では分からない現地の文化や現状なども知ることができました。ご支援くださった後援会の皆さまへ心より感謝申し上げます。これからもカンボジア人の頑張りを励みにして、私自身も前進していきます。

## リレーエッセイ 第4回

沢山悩んで、挑戦して、後悔しない選択を！

私は学生時代教職を志し、大学院で教員専修免許を取得しました。しかし、本学のOGでもある恩師との出会いをきっかけに、教員の道しか考えていなかった私に転機が訪れました。彼女の講義のティーチングアシスタントを務めていた私は、何度も彼女の学生時代の話を聞く機会があり、あまりにも楽しそうに話す姿が印象的で沖能大学に興味を持ちました。そしてこの大学について書かれた図書を読み、タイトルでもあった『小さな大学の大きな挑戦』の数々に感銘を受け、ここで働きたいという想いが強くなっていきました。

日頃お世話になっていた大学職員にもどうすれば大学で働くことができるのか尋ね、その時初めて、学業のみならずあらゆる面から学生をサポートする大学職員の仕事について知り、私

がやりたかったことはまさにこれだと思いました。新卒で即入職は叶いませんでしたが、民間企業で一年間経験を積んだ後、現在沖能大学の職員として働かせていただいています。進路選択で紆余曲折あった自身の体験も織り込んで、学生にはあらゆる可能性があるのだという気持ちで面談させていただき、学生自ら意志を決められるようサポートしています。

私と同じように教職課程を履修していた女子学生の話ですが、彼女は二年生の時「今自分が何をしたいのか全く分からない」と就職支援課を訪れました。しかし教員になりたいと思っただけでなかなか掘り下げ少しずつ話を聞き取る内、実はブライダル業界への憧れがあり、「このまま教員になると後悔するかも」という不安を抱えていることが分かりました。その際は、「教員」か「ブライディングプランナー」という二択ではなく、その他の可能性も含めて実現することができるように、今できることについて具体的にアドバイスさせていたいただきました。すると彼女は教職履修に励む傍ら、海外や県外のインターンシップなどにも積極的に挑戦

し自身の進路選択の幅を広げ、三年生となった現在、教員でもブライダル業界でもない、新たな目標を見つけ取り組んでいます。目まぐるしい日々を過しながらも「充実しています」と笑顔で話す彼女から、私も常にパワーをもらっています。

就職活動の期間というのは不思議なもので、学生を一年で三年分も成長させてくれる力を持つています。今後も学生たちの成長を傍で見守ることができると喜びを噛みしめながら、全力で就職支援を行っていきます。

今回は、教務課の上江洲さんにバトンを回します。

（就職支援課 島仲小百合）



卒業式後挨拶に来てくれた2014年度卒業生と

「何度も言ったのに何でできないの?」「ちゃんとしなさいって言ったのにできません」と子どもを持つ保護者や先生方から相談を受けることがあります。私自身この分野に足を踏み入れたきっかけも子どもたちと音楽を通して関わっている時「何でわかってくれないの?」「何でずっと耳ふさぎしているの?」という疑問からでした(他国でのこと

だったので、なおさら伝わらずフラストレーションを感じました)。それから、特別支援教育や心理学を大学院等で学び、発達障害児者やその家族を支援、研究を現在まで行っています。具体的には、発達障害を持つ幼児に対して、発語を促したり、適切な行動スキル、社会的スキルを形成したりする療育支援、少し年齢が上

### 研究のひろば

## 子に過ぎたる宝なし



人文学部 子ども文化学科 講師  
松尾 理沙

り方によって、発達障害の症状は和らぐことも悪くもなることもあり、その影響は成長しても続いてしまうこともあります。発達障害と一括りにはできないくらい一人一人の特性は違っており、例えば感覚に関して蛍光灯の明かりが鋭すぎて部屋に入れないと視覚に感覚過敏を持つ方もいれば、ガラスが足に刺さってしまったて血を出しても痛

がらない感覚鈍麻を持つ方もいます。「何度も言ったのに何でできないの?」「子どもにも言っても子どもからするとただ「怒られた」という感覚だけが残って、何を怒られたのか、何をどうすればよいのか全く理解していない子どももいます。「ちゃんとしなさい」と言われても、その「ちゃんとしなさい」という意味が異なっています。「大きな声であいさつすることなのか、「シャツをズボンに入れる」という意味なのか、「目を見てあいさつすることなのか、言われた方は具体的にできないため理解することが難しい子もいます。子どもと関わる保護者や保育士、教師等にこれらのようなことを伝え、少しでも子どもとの関わりが楽しくなり、子ども自身も生活のし辛さを少しでも減らせるように、日々研究や実践を行っています。また、将来子どもに関わる機会がある学生たちに

さつすることなのか、言われた方は具体的にできないため理解することが難しい子もいます。子どもと関わる保護者や保育士、教師等にこれらのようなことを伝え、少しでも子どもとの関わりが楽しくなり、子ども自身も生活のし辛さを少しでも減らせるように、日々研究や実践を行っています。また、将来子どもに関わる機会がある学生たちに

も、子どもに対して頭ごなしで叱りつけるのではなく、自分の振る舞いを見直し、発達や子どもの特性からその子自身の困り感に気づき適切な支援ができるよう指導しています。「子に過ぎたる宝なし」。将来を担う方々を大切に育てていきたいと思えます。

**わがゼミナール**  
**沖縄ビジネス界に旋風を起こす**  
 法経学部 法経学科 准教授  
**大城 淳**

多くの大学教員は「夏休みは仕事がなくいいはずよ」と言われた経験を持つている。たしかに、長期休暇がやってくると教員たちの淀んだ目が輝きを取り戻す。でもそれは暇を満喫できるからではなく、研究を専らにできるかけがえのない時間だからだ。研究者にとっては仕事がないどころかむしろ「かき入れ時」なのである。夏休みほどではないにしても、ゴールデン・ウィークもワックワ

クな瞬間だ。毎日研究室に缶詰、ムフフでも、今年は研究以外にも楽しみがあった。五月四日、ゼミで作った書籍『沖縄の業界地図』が県内の書店やコンビニに並び始めたのである。

一年前の四月、春粧のみぎり、最初のゼミ。私は黒板にでかかど「本」とだけ書き殴り、「今年の目標はこれ。本を作ろう。売れる本を作ろう。売ろう。」と昂然と宣言した。戸惑いを隠せない学生たちを尻目に、担当範囲やプレゼンテーション(と懇親会のスケジュールを決めて、プロジェクトは動き出した。人手が必要なこともあり、豊川明佳先生のゼミと共同で進めることとした。

『沖縄の業界地図』は名前の通り、毎年書店を賑わす『業界地図』のローカル版だ。県内の様々な業界の勢力図が一望できるようになっている。企業人や就職活動中の学生を中心に、需要は間違いなくある。だが供給がなかった。全国的にもユニークな取り組みに挑む好機だ。

教員が果たすべき使命は、沖縄の未来を切り拓く人材を育てることだ。何か新しいアイデアを産み出し形にできるよう、創造力と実行力を鍛えねばならない。我々のゼミは、アイディアを実現するというイノベータータイプな知的営為を学生が体験する場になった。試

行錯誤を繰り返すことを厭わず、未知の事態に慌てず、チームと歩調を合わせ、前向きに仕事に取り組み、新聞にも日々目を通す。こうした技能を楽しみながら伸ばす機会を提供することができたと自負している。

我々はただの思い出作りではなく、リスクを背負って市場に価値を問うという真剣勝負を仕掛けた。二千部を完売するのに一ヶ月とかからなかった。美栄橋ジュンク堂では三週連続ランキング一位を記録した。ありがたや。売れるものを作ろうという目標は見事達成されたのである。



新聞記者の取材を受けるゼミの学生たち

## 聴講生インタビュー

## 沖繩で日々見聞することすべてが学びに

伊藤わらびさん (沖繩大学地域研究所特別研究員/十文字学園女子大学名誉教授)

沖繩大学には、土曜教養講座などの公開講座に加え、地域の方が学生と一緒にカリキュラムを受講する聴講制度があります。昨年度から那覇に住まれて、沖繩関係の授業を集中的に受講なさっている聴講生の伊藤わらびさんにお話を伺いました。

―沖繩との関わりは、多良間島から始まったそうですね。

厚労省が5年毎に出生率の全国自治体ランキングを発表しますが、今から12年前、当時全国3200余の自治体の中でトップが多良間村だったのです。聞いたこともない名前前で、飛行機を那覇と宮古島で乗り換えてかなり遠い所だと分かりました。私が訪れる前に既にメディアや研究者が押し掛けたことでした。私はなぜ出生率が高いのか役場やクリニック、保育所や幼稚園を訪ねて調べました。それを、大学の紀要で発表したのですが、それ以来のお付き合いです。

―ご専門は。

私は児童福祉、保育が専門ですが、若い頃戦災孤児の施設としてスタートした児童養護施設で働い

た経験があります。現在は多くが虐待を受けた子どもたちの施設に なっています。大学での教員生活も保育者や社会福祉士の養成が長 かったです。

2012年に再び多良間島を訪れ、「八月踊り」(豊年祭)を初めて鑑賞し大変感動しました。300年以上の歴史があり、島民が 一丸となって取り組む伝統ある 豊年祭です。農耕文化における厳

しい自然との闘いの中で、五穀豊 穫への感謝と来年の豊作の祈願と して始まったそうです。八月踊り は1日約10時間3日間演じられま す。村の2つの字で各2つの組踊 が上演されます。多良間島の八月 踊りは沖繩県で最初に1976年 に国の重要無形文化財に指定され ました。「組踊」はご承知のよう に2010年にユネスコの世界無 形文化遺産に登録された沖繩県の 誇るべき素晴らしい伝統芸能です。

私は芸能とは縁の無かった人間ですが、村民たちが若者や子どもたちに琉球舞踊や組踊、狂言などの演技を教え、継承していることに深い感銘を受けました。やがて子どもたちは成長したら、八月踊りの担い手になることでしょう。

―多良間島での1年は、どのような研究を。

多良間島での八月踊りについては、私なりの視点で日本保育学会や日本世代間交流学会で発表しました。民俗芸能の他に、私の専門である保育・育児の研究もある程度まとめることが出来ました。1979年に村立保育所が開設しましたが、その2、3年前から保育所作り運動に取り組んだ3人の女性や、開設当初保育士として採用された方々のお話を聞くことが出来ました。保育所が無かった時代から、多良間島には「守姉(むり



「近代沖繩文学」を受講している伊藤わらびさん

した。日本保育学会で多良間島の保育所作り運動と、「守姉」について発表をしました。

―そして今那覇に住んでおられます。

当初は多良間島の1年で帰京する予定でした。でも島だけで帰るといのは何か物足りない気持ちがありました。一度帰ってしまうとまた次いつ来られるか分からない。それで去年の3月の末日に那覇へ移り、こちらで1年間暮らすことにしました。それがまた延びましたが、今年の10月には東京に帰らなければなりません。

―那覇ではどのような暮らしを。

私は1年間暮らした多良間島のことしか知らなかったのですが、那覇に移ったことでもっと広く様々のことが見聞できます。島では参加をあきらめていた講演会、研究会、図書館、博物館などへ何時でも身近に出かけられます。新聞の報道で各地域の民俗芸能や、10年、20年ぶりに組踊が復活したということを知り、出かけたこともあります。

「国立劇場おきなわ」の友の会会員になっていますが、毎月何回かは素晴らしい舞台を鑑賞しております。本土のお客さんにも国立劇場の組踊の日程に合わ

せて来沖してもらっています。

―平和学習にも取り組んでいらっしゃると思います。

平和学習は大きな重要なテーマですね。私は沖縄に参りまして、本土と比較できないくらい平和学習の取組みが盛んであることを知りました。子どもたちは戦争を全然知りませんし、親の世代も知りません。70歳代半ば以上の方々は戦争の記憶がおりで、若い人たちが子どもたちに語り部として一生懸命戦争の体験を語っておられます。生き地獄の悲惨な状況は思い出すのもつらいことと思いますが、二度と戦争の悲劇を繰り返さないために必死で訴えておられます。

昨秋高校生の孫が修学旅行で沖縄に参りましたが、美しい海、美味しい食べ物と共に「戦争と平和について」心に留める契機となったことと思います。年間700万人を超える観光客の方々にも是非訴えたいことです。私は沖縄についての学習は未だ始めたばかりで、ものを言う資格はないと思いますが、昨秋の日本世代間交流学会で「沖縄県における平和学習―沖縄戦体験者の『語り』による記憶の継承を中心に」を発表しました。本土には沖縄の実情の情報が届いていません。学会は全国から

会員が参加しますので、沖縄の現実を是非知って欲しいと考えた次第です。

―5月17日の県民大会に参加したそうですね。

セルラースタジアムへは歩いて行きました。会場の内外にあふれた大勢の参集者から、沖縄県民は穏やかに見えますが、やはり強い怒りを抱いていることをひしひしと感じました。翁長知事が最後に方言で「沖縄の人をなめてはいけませんよ!」と言った時に起こった参集者の喝采から県民の心を代弁したと感じました。琉球、沖縄の歴史はこちらで初めて学びましたが、知事の言葉は、長い歴史の中でそして現在も続く辛酸に対する日本政府への強い憤りを持った叫びだと思えます。日本本土から離れて沖縄に暮らしていると、日本政府の政治のやり方が良く見えます。世界でも類を見ない悲惨な地上戦のあった沖縄県民の民意を踏みにじる強行な辺野古新基地建設と強権を振りかざす現政府のやり方に、政治とは一体誰のためのものかと考えさせられ憤りを感じます。

琉球、沖縄県の歴史の学習は沖縄大学でも何科目か受講していますが、那覇市内での公・民間主催のいくつかの講座にも出

席しました。いずれも年輩の参加者で満員でした。若い人は大入試に余り出題されないというところで、十分に琉球、沖縄の歴史を学習していないとも聞きました。非常に残念だとも聞きました。沖縄の歴史を知ることでも子どもたち、若い人たちが沖縄に対して誇りと自信を持てると思えますし、現在の問題の理解にもつながると思います。

小さな王国でしたが、他国と争わず非武の文化、教養をもって500年間の長きにわたり繁栄したことは今日に通じる立派な政治理念と言えるのではないのでしょうか。弱者である小国を強国が力でもって占領し滅ぼして良いものでしょうか。私は日本の政治家は沖縄の歴史を必修として学習するべきと考えます。日本政府には、品性と知性ある政治を求めます。

―ところで、那覇で聴講生になろうと思われたのは。

那覇で暮らすというのは良い考えだったと思います。フィールドワークのつもりで来ましたので、沖縄では大学とは縁が無いと考えていました。沖縄大学は那覇市内にあり通学にも大変便利です。大学で「沖縄学」分野を中心を受講していますが、学問として体系的に学ぶことの

意義を痛感しております。今年度前期は月、火、水曜日に8科目受講しています。昨年度は大学院と学部との授業を聴講しました。「沖縄の言語」では方言が難しく苦闘していますが、本土では平安時代以降消えた発音が琉球語の中に変化せずキープされていることに感動しています。現在琉球語が消滅の危機に瀕している経緯を学び心が痛みます。

授業の内容は、殆どすべて初耳のことばかりです。本土の間(ヤマトンチュ)として、耳をふさぎたいと思うこと、また琉球、沖縄の近現代の歴史に胸が痛むことしばしばです。日本人としてのアイデンティティについて真剣に考えさせられました。歴史上為政者の犯した罪は、やはり、今生きているヤマトンチュも背負わなければいけない罪だと感じます。そのようなことを考えますと、後世に民族の子孫が他国に対して恥じることに無い立派な政治を行うべきと考えます。

―常に学び続けていらっしゃるそうですね。

そうですね、暇を持て余すということはないですね。授業がない日も予定が沢山入っています。貴重なフィールドワークも

ありますが、友人たちとの女子会や、来沖したお客さんのガイドも引き受けます。私にとつて沖縄で日々見聞することすべてが学びとなっています。人生のいよいよ終盤を迎えるこのような充実した貴重な学びの機会が与えられましたことに心から感謝いたしております。私は東京に戻りましたら、こちらで学びましたことを生かし、沖縄の情報として発信できたらと考えております。

沖縄大学は地域に開かれた大学でありますことを理念としておられ、誰でも学びたい人を拒みません。市民として大変有難いことです。授業により、年配の受講生がおられ、そういう方々と繋がりも持てたりしています。地域の方々と共に大学が歩んでいるということは大変素晴らしいことですね。

―地域の現場に足を運び、地域の大学も使って、ご自分の人生を上手に学びの人生にしているらっしゃると思えました。その中に沖縄大学があったことを大変うれしく思います。

また、伊藤様には本学へ多額の寄附を賜り、冠奨学金二人分、吹奏楽部、エイサー部への支援が実現いたしました。この度のご厚意、誠にありがとうございました。

(5月28日 構成・経営企画室)

2015年度

# 沖繩大学入学式



## 学長式辞(抄録)

沖繩大学学長 仲地 博

先ほど入学を許可いたしました法経学部196名、人文学部282名、大学院現代沖繩研究科7名、留学生別科8名、計493名の皆さん、ご入学おめでとうございませう。ご列席のご父母そしてご家族の皆様にも、心からお慶びを申し上げます。

全国に800近い大学の中で、この特色ある大学—沖繩大学に集うことができたことを、沖繩大学全教職員と同窓会、後援会など関係者全てが大変嬉しく思っています。

今日私は皆様に二つの事をお話したいと思えます。一つは、沖繩大学がどういう大学であるかということ、二つ目は学ぶことの意味です。まず、沖繩大学の紹介です。沖繩大学は、今年創立57年を迎える沖繩で一番歴史の古い私立大学です。

沖繩大学は、米軍統治下の沖繩で1958年に創設されました。当時の沖繩の高等

教育機関は、定員わずか500名の琉球大学だけでした。今沖繩には、科学技術大学院大学や工業高等専門学校も含めて、大学、短大が10ありますが、沖繩大学は琉球大学に次ぐ歴史を持ちます。ちなみに、沖繩大学は日本の大学の中で、最南端にある大学です。

沖繩大学が創設されたころは、沖繩がまだB円(米軍が発行した通貨でその模様にアルファベットのBが印刷されていたためB円と呼ばれました)を使っている時代で、沖繩大学開学の年にアメリカのドルに切り替えられます。「本土」渡航もままならない時代で、向学の志に燃える青年たちに学問の場を提供したのです。学園を創設したのは嘉数昇先生です。

以来沖繩大学は、多くの人材を輩出してゆきますが、1972年の施政権返還いわゆる日本復帰の際、大きな困難にぶつかりました。戦後27年米軍の統治下にあった沖繩では、独自の法制度が行われており、それを日本の制度に組み込むための調整が進められますが、教育分野でいいますと、沖繩の大学は日本の大学設置

基準に達しないことが問題になったのです。琉球大学は国立大学に移管し整備することになりました。コザ市にあった国際大学と那覇にある沖繩大学は統合させ新しい大学を作り、それに対して補助金を出して整備するというのが政府の方針になりました。沖繩大学の半分の教職員学生は、それに賛成し、今の沖繩国際大学ができました。沖繩大学の半分の教職員学生は、「他律的統合に反対し、沖繩大学を守る」ことにいたしました。それに対して、政府文部省は大学設置基準に満たないことにより大学として認めないことを決定したのです。

苦しい存続闘争が始まることになりました。最終的には文部省の理解を得て、あらためて大学として認可するという手続きが取られることになりましたが、その過程で、多くの人々の支援があったことを忘れてはなりません。沖繩県知事は政府に対して「沖大存続要請」を行いました。広範な県民が例えば20万人署名運動を行い、また「沖大存続を求める県民総決起大会」が開催されました。その大会は今入学式が行われている市民会館の隣の与儀

公園が会場です。当時は大きな集會が開かれるとき会場になる広場でした。集會の後には引き続きデモ行進も行われます。一私立大学の存続に多くの人々が関心を寄せ支援をしたのはなぜでしょうか。当時沖繩大学の18名の教員が、新聞紙上で「沖繩大学存続の趣旨」と題する広告を出しています。それはこう述べています。「種々の形で本土への系列化並びに再編成が強引に行われている。一切が強大な力に組み込まれている中で、せめて私立大学だけでも踏みとどまるところがなくてはならない」。私たちの先輩は困難を覚悟し、それを乗り越え自主独立の道を選ぶ決意をしたのです。それに県民は共感し、やがて沖繩大学支援の輪は「本土」にも広がっていきます。設置基準に満たなかった沖繩大学は、今規模は小さくても実践力のある教育機関として評価される堂々たる大学に成長しました。

沖繩大学は、県民の支援を得て生き延びました。全国に私立大学は600以上ありますが、一私学のために住民が集會をしデモをしてくれた大学は沖繩大学だけでしょう。私たちはそれを誇りとして心に刻みたいと思います。皆さんは、沖繩大学の理念をご存じでしょうか。「地域共創・未来共創の大学へ」です。共創は、競い合う競争、の競争ではなく、共に創る共創です。沖繩大学は、一人聳え立つ孤高の大学ではありません。象牙の塔でもありません。社会と共にある大学です。多くの人々が沖繩大学の存続に心を寄せ、手を貸してくれました。沖繩大学もまた地域に心をよせその未来を創ります。地域共創未来共創の大学へと歩みます。

沖繩大学憲章は、沖繩大学の教育と研究の基本理念を定めたもので、憲法のよなものですが、こう宣言しています。「沖繩大学がめざす21世紀型市民とは、『他者との対話と協働を通じてより良い社会を創っていく力のある人間』です。沖繩大学には県外や外国から進学してきた方がたも多くおられます。沖繩出身であっても、卒業後は広く県外そして海外に人生の場を求めた学生も少なくありません。それぞれの場所で、社会に関心を持ち、さまざまな立場を理解し合い、望ましい未来を語り合い、協力し合つて地域を創りあげていく人材を育てたい、沖繩大学はそう願っています。

沖繩大学は、人と文化と社会に関する学問を扱う文系総合大学です。70名の専任教員、50名の職員、200名の非常勤の教員が全力で教育に当たります。皆さんが意欲をもって取り組みたいに効果があがり、4年後には、必ずしや新しい世界が広がっているはずですよ。

最後にありますが、皆様は、1日も早く新しい生活環境に慣れ、心身ともに健全に保ち、勉学に励み、目標に向かって進んでください。ここにおられるすべての新入生の皆さん特に若い皆さんにとつて、大学生時代は、長い人生の中でもかけがえのない大切な時期となるでしょう。4年後あるいは2年後の卒業式の時に、我が大学生活に悔いはないと総括して卒業できるような充実した楽しい大学生活となることを祈念しております。大学は全力を挙げて皆様の教育にあたることをお約束して、学長式辞といたします。



## 新入生代表挨拶(抄録)

新入生代表

法経学科(那覇商業高卒)

下里 梨菜

やわらかな風に包まれ春の訪れを感じるこの良き日に私たちは晴れて沖繩大学へと入学します。

私たちが、今日この日を迎えられるのも多くの方々のおかげがあったからです。これまで私達を導いてくださった先生方、喜びや悲しみをと共に分かち合つて過ごした友人たち、大きな愛情で育んでくれた家族。今思うと、語り尽くすことのできない感謝の気持ちでいっぱいです。

大学は高校とは違い、専門的な知識を高める場所です。世の中にある多くの価値観の中から、自分自身が

『何のために生きるか』、『これからどのように生きるか』という問いに対する答えをみつける場でもあります。

今日の日本は、長引く経済低迷、就職難、返せるあても無い国家財政赤字、そして放射能や災害不安と、その他様々な問題を山積みに抱えています。これからは、私たちが明るい未来を作り出す努力をしなければなりません。その為に、大学という恵まれた環境のもとで自分の秘めている可能性を引き出し伸ばしていけるよう、仲間と共に切磋琢磨しながら、日々成長していきたいと思えます。

私たち新入生は、『地域に根ざし、地域に学び、地域と共に生きる開かれた大学へ』というスローガン、そして、『地域共創・未来共創の大学へ』という理念のもと、現在の日本・世界・地域が抱える問題を見つめ、その解決策を見つけ出し、社会に役立てる人材を目標とし、学業はもちろん、サークル活動やボランティア活動など、何事にも積極的に励んでいきたいと思えます。

おわりに、これから始まる大学生活を有意義で充実した日々にするをここに誓い、新入生代表の挨拶とさせていただきます。

## 2014 (平成26) 年度 決算について

### 資金収支計算書

(単位:千円)

支出の部		収入の部	
科目	金額	科目	金額
人件費支出	1,146,573	学生生徒等納付金収入	1,648,533
教育研究経費支出	476,603	手数料収入	22,262
管理経費支出	81,294	寄付金収入	29,464
借入金等利息支出	14,978	補助金収入	290,718
借入金等返済支出	52,850	資産運用収入	19,565
施設関係支出	7,546	資産売却収入	64
設備関係支出	49,912	雑収入	2,839
資産運用支出	31,668	雑収入	31,757
その他の支出	64,541	前受金収入	790,416
資金支出調整勘定	△35,591	その他の収入	89,474
次年度繰越支払資金	2,736,229	資金収入調整勘定	△841,720
		前年度繰越支払資金	2,543,230
支出の部 合計	4,626,605	収入の部 合計	4,626,605

資金収支計算書は、当該年度における学校法人の諸活動に対応する資金の使途(資金支出)とこれに対する資金の調達(資金収入)のすべてを明らかにしたものです。また、年度末における支払資金(現金及びいつでも引き出すことができる預貯金)がいくらあるかも表します。

資金収入には、授業料等の学費や、入学検定料、寄付金、補助金等の収入や、負債となる前受金などのすべての収入を計上します。資金収入調整勘定は、収入として計上したが、未収になっているもの、前受金収入として前年度までに既に受け入れている本年度の学納金などを調整するための科目でありマイナス計上します。

資金支出には、教職員に支払う給与、教育や研究のための経費、消耗品や水道光熱費等の諸経費、土地、建物、図書、機器備品の購入費等のすべての支出を計上します。資金支出調整勘定は期末未払金であり、具体的には私学事業団への3月分掛金や3月下旬に起案された各科目支出などで、本来は当該年度中の支払であるが、年度を越え4月以降に支出される金額を表す科目でありマイナス計上します。

### 消費収支計算書

(単位:千円)

支出の部		収入の部	
科目	金額	科目	金額
人件費	1,148,947	学生生徒等納付金	1,648,533
教育研究経費	632,965	手数料	22,262
管理経費	85,554	寄付金	31,709
借入金等利息	14,978	補助金	290,718
資産処分差額	1,160	資産運用収入	19,565
		事業収入	2,839
		雑収入	32,376
		帰属収入合計	2,048,003
		基本金組入額合計	△95,025
消費支出の部合計	1,883,606	消費収入の部合計	1,952,978
当年度消費収入超過額	69,371		
前年度繰越消費支出超過額	325,320		
翌年度繰越消費支出超過額	255,949		

学校法人会計基準によれば、消費収支計算の目的は「毎会計年度、当該会計年度の消費収入及び消費支出の内容及び均衡の状態を明らかにするため、消費収支計算を行うもの」とされています。消費収支計算では授業料や補助金など自己資金となる(借入金のような負債ではない)収入を帰属収入といい、ここから基本金組入額を控除した額を消費収入としています。消費支出は、会計年度中に学校法人が消費する資産の取得価額及び用役の対価の合計です。

教育研究活動を提供する学校法人は、企業などよりも継続性が一層重要視されています。その為、資金収支計算で明らかにされる資金の収支及び期末以外に、学校法人の資産の消費額及び用役の対価(消費支出)と、その補填に充当しうる収入(消費収入)とが持続的に均衡しているかを明らかにするために消費収支計算書を作成する必要があるのです。

### 貸借対照表

(単位:千円)

資産の部		負債・基本金・消費収支差額の部	
科目	金額	科目	金額
固定資産	5,067,748	固定負債	1,351,990
(1)有形固定資産	4,538,312	流動負債	886,066
(2)その他の固定資産	529,435	負債の部合計	2,238,056
流動資産	2,774,906	第1号基本金	5,528,547
		第2号基本金	200,000
		第3号基本金	0
		第4号基本金	132,000
		基本金の部合計	5,860,547
		翌年度繰越支出超過額	△255,949
合計	7,842,654	合計	7,842,654

貸借対照表は、年度末における法人の財政状況を明らかにするために、法人の保有する資産、負債、基本金及び翌年度繰越消費収支差額を一覧表示したものです。

本年度末の総資産は約78億円で、前年度末に比べて6千万円増加しています。一方、負債総額は約22億4千万円で、前年度より1億円減少しています。「負債」とは言っても、その大半は前受金(次年度授業料の前払金約8億円)と退職給付引当金(約4億7千万円)など返済の必要のない負債です。一般的な意味での負債は、本館ビル建設及び長田第一駐車場購入時の私学事業団からの借入金の残、約9億円ですが、利子を含め毎年約6千6百万円を着実に返済しています。

#### 基本金について

学校法人は、設置する学校の教育研究やその他の諸活動を行うために、校地、校舎、機器備品、図書等の資産を保有しています。そして、これら保有資産のうち、教育研究に必要な資産は、教育水準の維持向上と円滑な法人運営を図る観点から、継続的に保持しなければならぬことになっています。このように、必要な資産の維持状況を表したものが基本金です。

## 2015 (平成27) 年度 予算について

### 資金収支予算書 (単位:千円)

収入の部		支出の部	
科目	予算	前年度予算	増・減
学生生徒等納付金収入	1,629,207	1,634,074	△4,867
手数料収入	22,040	26,597	△4,557
寄付金収入	25,870	24,002	1,868
補助金収入	306,527	299,858	6,669
付随事業・収益事業収入	2,804	2,570	234
受取利息・配当金収入	5,360	4,990	370
雑収入	61,202	27,610	33,592
前受金収入	815,772	839,357	△23,585
その他の収入	28,928	88,873	△59,945
資金収入調整勘定	△893,013	△857,511	△35,502
前年度繰越支払資金	2,681,188	2,430,634	250,554
収入の部合計	4,685,885	4,521,054	164,831

支出の部		収入の部	
科目	予算	前年度予算	増・減
人件費支出	1,195,222	1,142,965	52,257
教育研究経費支出	473,050	495,558	△22,508
管理経費支出	79,650	81,738	△2,088
借入金等利息支出	14,132	14,978	△846
借入金等返済支出	52,850	52,850	0
施設関係支出	42,000	51,000	△9,000
設備関係支出	168,938	71,152	97,786
資産運用支出	31,000	31,000	0
その他の支出	26,716	60,936	△34,220
予備費	10,000	10,000	0
資金支出調整勘定	△125,092	△59,715	△65,377
翌年度繰越支払資金	2,717,419	2,568,592	148,827
支出の部合計	4,685,885	4,521,054	164,831

学生生徒等納付金とは、授業料、施設費、実習料などです。手数料は入試の受験料、各種証明書の発行手数料や大学入試センター試験手数料などが含まれます。

補助金収入は国庫補助金が中心です。

付随事業・収益事業収入は、補助活動として行っている各種講座の受講料収入が含まれます。

前受金収入とは、入学金など本来、翌会計年度に属する収入を当該年度において収納したものをいいます。

人件費は、専任教職員や非常勤講師、非常勤職員の給与、各種手当、期末手当などです。

教育研究費とは、研究助成費やクラブ活動補助金、奨学金、光熱水費や消耗品まで、教育活動に必要なすべての経費が含まれています。

毎年度の収支バランスを見ることのできる額です。

土地や建物、備品、図書等、法人を維持するために必要な資産を継続的に保持するための組入額です。

### 事業活動収支予算書 (単位:千円)

※旧:消費収支予算書。学校法人会計基準の改正により、今年度から様式が変更になりました。

事業活動収支	科目	本年度予算		前年度予算		増・減
		本年度予算	前年度予算	本年度予算	前年度予算	
教育活動収支	学生生徒等納付金	1,629,207	1,634,074	1,634,074	1,634,074	△4,867
	手数料	22,040	26,597	26,597	26,597	△4,557
	寄付金	25,870	24,002	24,002	24,002	1,868
	経常費等補助金	298,977	291,850	291,850	291,850	7,127
	付随事業収入	2,804	2,570	2,570	2,570	234
	雑収入	61,202	27,610	27,610	27,610	33,592
	教育活動収入計	2,040,100	2,006,703	2,006,703	2,006,703	33,397
	人件費	1,201,400	1,142,398	1,142,398	1,142,398	59,002
	教育研究経費	614,243	647,587	647,587	647,587	△33,344
	管理経費	84,038	85,610	85,610	85,610	△1,572
教育活動支出計	1,899,681	1,875,595	1,875,595	1,875,595	24,086	
教育活動収支差額	140,419	131,108	131,108	131,108	9,311	
教育活動外収支	受取利息・配当金	5,360	4,990	4,990	4,990	370
	教育活動外収入計	5,360	4,990	4,990	4,990	370
	借入金等利息	14,132	14,978	14,978	14,978	△846
	教育活動外支出計	14,132	14,978	14,978	14,978	△846
	教育活動外収支差額	△8,772	△9,988	△9,988	△9,988	1,216
経常収支差額	131,647	121,120	121,120	121,120	10,527	
特別収支	その他の特別収入	7,550	8,008	8,008	8,008	△458
	特別収入計	7,550	8,008	8,008	8,008	△458
	特別収支差額	7,550	8,008	8,008	8,008	△458
	(予備費)	10,000	10,000	10,000	10,000	0
	基本金組入前当年度収支差額	129,197	119,128	119,128	119,128	10,069
	基本金組入額合計	△45,311	△79,521	△79,521	△79,521	34,210
	当年度収支差額	83,886	39,607	39,607	39,607	44,279
	前年度繰越収支差額	△285,714	△438,389	△438,389	△438,389	152,675
	翌年度繰越収支差額	△201,828	△398,782	△398,782	△398,782	△196,954
	事業活動収入計	2,053,010	2,019,701	2,019,701	2,019,701	33,309
事業活動支出計	1,923,813	1,900,573	1,900,573	1,900,573	23,240	

今年度から導入された事業活動収支計算書は区分経理の考え方を取り入れています。教育活動の収支差額が+140,419千円、教育活動外収支差額が-8,772千円、この合計である経常収支差額が+131,647千円。つまり、本業による教育活動で得た収入で教育活動外で支出を補い、1億3千万円の収入超過(黒字)となるということです。結論だけ簡単に説明すれば、当年度収支差額83,886千円が、今年度の黒字予定額であり、その分だけ翌年度繰越収支差額(支出超過つまり累積赤字)を減少させます。

2015年度

# 沖縄大学後援会総会報告

沖縄大学後援会は、会員である父母の皆様と教職員を中心に活発な活動を行ってきました。後援会の主な事業として、後援会独自の奨学金制度、様々な学生活動の支援などがあります。

2015年度沖縄大学後援会総会・懇親会が、6月20日(土)本館同窓会館において開催されました。総会での審議事項については左記の通りです。

## 審議事項

- ① 2014年度事業報告
- ② 2014年度決算報告及び監査報告
- ③ 2015年度事業計画(案)
- ④ 2015年度予算(案)
- ⑤ 2015年度役員(案)

全ての審議事項について、ご承認いただきました。会員皆様のご協力に感謝申し上げます。なお、詳しい総会資料については本学HPの後援会ページよりダウンロードいただけます。

昨年度は、奨学金の支出の他、体育会・同窓会と協力した支援など、様々な側面から積極的に

学生支援を展開いたしました。また、今年度は同窓会との合同懇親会を開催し、多くの卒業生や保護者の方が一同に集いました。今後はさらに同窓会との連携を強め、学生の国内外での活動のサポートを充実させていきたいと考えています。

9月には県内6地区で行われる父母懇談会へ会長・副会長が参加し、会員の皆様と交流を深める予定です。

また、久米島地区、北部地区では後援会支部結成に向けた活動も行う予定です、ますます父母と大学・後援会のつながりを強化していく予定としております。



総会で挨拶する嘉数昇明会長

今年度も引き続き後援会活動へのご理解、ご協力をよろしくお願いいたします。

## 2015年度役員

- 会長 嘉数 昇明  
(元沖縄県副知事)
- 副会長 伊良部 博久  
(りゅうぎん保証株式会社代表取締役社長)
- 副会長 儀間 浩  
(株式会社沖縄銀行融資管理部長)

# 2015年度 沖縄大学同窓会 総会報告

沖縄大学同窓会定期総会が6月20日(土)本館102教室で開催され、123名の同窓生が出席した。

総会は、渡久地政作氏(本学OB、那覇市議会議員)の司会進行のもと、議長団に親川盛一氏、稲嶺諭氏、議事録署名人に

謝花美佐子氏、兼島徹氏が選出され、議案審議に移った。第1号議案(2014年度事業活動報告、収支決算報告、監査報告、第2号議案(2015年度事業計画(案)、収支予算(案)、第3号議案(2015・2016年度役員・評議員(案))について若干の意見を含め全会一致で審議承認された。

その概略は、台湾支部及び青年部会の発足、在学生支援に2,320千円の予算計上。2015年度より同窓会創立50周年記念事業として、沖縄大学の「沖縄大学児童福祉特別奨学金制度」の趣旨に賛同し、同窓会も入金相当の給付型奨学金の制度を設置した。2015年度の同窓会役員は、金城正弘同窓会長(再任)、副会長に友利浩氏、金城正美氏、仲村昌和氏、玉城舞瑛子氏が再任され、新副会長に謝花美佐子氏が加わった。新監査役に屋比久里美氏、宮国利公氏、新事務局長に奥間邑明氏、新会計に大城達司氏がそれぞれ就任した。

総会では、昨年11月28日に開催された同窓会50周年記念式典、祝賀会の模様を含めた「沖縄大学同窓会創立50周年記念誌」も配布された。

定期総会後は、後援会(会長嘉数昇明氏、教職員を含めた初の合同懇親会が同窓会館で開

催された。友利浩同窓会副会長の開会挨拶の後、後援会、同窓会両会長の主催者挨拶があり、沖縄大学から長濱正弘理事長の来賓挨拶と仲地博学長の乾杯の挨拶を頂いた。

幕開けは金城フサ子琉舞研究所(同窓生)による舞台演舞に始まり、硬式野球部の九州地区大会での活躍、県外就活ツアーの参加報告、同窓会資格取得支援事業者の表彰等を交え、同窓会経八会バンド(1部経済学科8期生)、吹奏学部の演奏と続きより会場を盛り上げた。会場が満席になるなか後援会副会長伊良部博久さんから感謝の挨拶が述べられ盛況裏に閉会した。



# 2016年度 学生募集

お問い合わせ先：入試広報室(電話098・832・3270)

## 学部

今年度も本学の入試がはじまりました。AO入試(面接型・8月)を皮切りに、入試シーズン開始です。

## 募集要項

◎法経学科と国際コミュニケーション学科にAO入試の講義型(10月)が導入されました。  
◎こども文化学科で、一般入試

A日程の学科目試験が2科目選択から3科目すべてへ、一般入試B日程の学科目試験が1科目選択から2科目選択へ変更になりました。

## 試験会場

推薦入試は東京、大阪、福岡、名護、宮古、八重山、久米島会場でも実施。さらに一般入試A日程は名護、宮古、八重山、久米島会場でも実施。  
※外国人特別推薦、外国人・帰

## 大学案内

国生徒特別試験(A日程)、福祉文化学科健康スポーツ福祉専攻、一般入試A日程において、こども文化学科志望及び2学科併願の場合は本学会場のみ実施。

2016年度大学案内がこのほど完成しました。  
各学科の紹介、教職支援の取り組み、資格・検定対策、就職サポート、奨学金活用法やサークル紹介など、受験生が大学生活をイメージできやすいような一冊に仕上がっています。  
※沖縄大学HPでデジタルパンフレット掲載中

## イベント情報

### 第3回オープンキャンパス

10月31日(土)午後1時開始  
参加無料、送迎バス有、受験料免除特典あります。今年度最後のオープンキャンパスは、沖大祭と同時開催です。

## 大学院

### 大学院・現代沖縄研究科

沖縄大学大学院・現代沖縄研究科には、「地域経営専攻」と「沖縄・東アジア地域研究専攻」の

2専攻があります。入試はAO(社会人特別)と一般入試の2種類があり、選抜は語学試験、論述試験、口頭試問。入試日は、AO入試は個別に相談、一般入試は10月及び2月となっています。

①昼夜・土曜開講制・講義科目や演習は、原則として平日の6〜7校時と土曜日の午後後に開講されます。  
②長期履修制度・2年間の修業年限を超えて、計画的に教育課程を履修し修了することを希望する社会人等の志願者について長期履修生(3年間)としての入学を認めます。学費は、入学金を除き、2年間の総額を3年で除した額になります。

③専修免許取得制度(社会(中学)、公民・地理歴史(高校)の一種免許状保有者が本大学院を修了すると専修免許が取得できます。

### AO入試(社会人特別入試)

願書受付期間  
8月3日(月)〜2016年2月16日(火)  
面談の入試日は個別に相談。

### 一般入試(10月)

願書受付期間  
10月1日(木)〜7日(水)  
入試日：10月10日(土)

### 一般入試(2月)

願書受付期間  
2月1日(月)〜9日(火)  
入試日：2月20日(土)

## 父母懇談会のお知らせ

ご父母の皆様のご参加を、教職員、後援会・同窓会役員一同心よりお待ちしております。

- 9月2日(水)「北部地区」ホテルゆがふいんおきなわ
- 9月4日(金)「久米島地区」ホテル久米アイランド
- 9月8日(火)「中部地区」ホテルコスタビスタ沖縄
- 9月11日(金)「宮古島地区」ホテルアトルエメラルド宮古島
- 9月12日(土)「八重山地区」ホテル日航八重山
- 9月19日(土)「那覇地区」沖縄都ホテル

### 【寄附のお願い】

奨学金や教育環境整備を目的に、寄附金の募集を幅広く行っています。本学の学生支援の取り組みをご理解をいただき、ご支援を賜りますようお願いいたします。詳しくは左記までお電話下さい。

お問い合わせ先：沖縄大学経営企画室  
TEL：098-832-2910

## 編集後記

今号では、「海外留学・スタディツアーのススメ」を特集しました。留学生生活の体験記を読んだり、キャンパスで学んでいる留学生の話の聞いたりしているうちに、私も異質の文化の中で学んでみたいとなりました。でも、今一番学べる場所は沖縄かも。(後藤)